

障害者スポーツ人権教室（車椅子バスケットボール体験）

平成29年11月2日（木）、大野市立開成中学校において、中学1年生79名を対象に車椅子バスケットボール体験教室を実施しました。本事業は、福井地方法務局及び福井人権擁護委員協議会と、東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として発足したオリンピック・パラリンピック等経済界協議会が連携し、社会福祉法人大野市社会福祉協議会の協力を得て実施したもので、北陸・東海6県では初めての取組です。また、本事業には、人権学生ボランティアとして、県内の大学の車椅子バスケットボールサークルに所属する大学生3名が参加してくれました。

車椅子の乗り方等の説明

人権学生ボランティアが主体となって、初めて車椅子に乗る中学生に対し、車椅子の操作（走り方、止まり方、曲がり方など）の仕方を説明しました。また、車椅子バスケットボールの説明の際は、人権学生ボランティアを含めた2対2の実際のゲームを見せて、どのようなルールがあるのか説明しました。



中学生と車椅子バスケットボール



中学生にも、車椅子バスケットボールの試合を体験してもらいました。人権学生ボランティアが1名ずつ各チームに入り、中学生のサポートを行い、初めて車椅子を体験した中学生が次々とシュートを決め、大いに盛り上がりました。体験教室終了後に、体験した中学生を対象に

したアンケートには、車椅子バスケットボールの体験を通じて、障害者スポーツへの理解が深まったことや、協力することの大切さを学んだことなどが記入されており、「障害者だからといって、差別をしてはいけない。」とか「誰かが困っているとき、声を掛けてあげたい。」などのコメントが多数寄せられました。

また、本事業に参加してくれた人権学生ボランティアの大学生からは、「来春から私も教員として子どもたちと向き合うので、人権を大切にできる指導をしていきたい。」や「人権教育に多くの方が関わっていることを知ることができ良かった。」などのコメントをいただき、大学生の方々にとっても、人権尊重意識を高めてもらうきっかけとなりました。